

第21回

大阪市北区(旧大淀区) 旧長柄橋の弾痕と慰靈の観音像

地下鉄堺筋線・谷町線の天神橋筋六丁目駅を降り、天神橋筋を北に進むと淀川にかかる長柄橋が見えてくる。「ながらこばし」と書かれた欄干の横、堤防の脇に観音像があり、その横に「旧長柄橋弾痕」と書かれた銘板がはめ込まれたコンクリートの塊がおかれている(北区天神橋8丁目・長柄橋南詰)。これは、今の長柄橋に架け代わる前の「旧長柄橋」の橋脚の一部分である。

よく見ると、前の部分に大きくえぐられて削れた弾痕をはっきりと見ることができる。

1944年(昭和19年)から1945年(昭和20年)にかけて、大阪には大きな空襲が8回もあった。

死者・行方不明者1万4千人あまり、被災者122万人に及ぶ大きな被害を受け、そのために大阪市の人口は244万人から111万人にも減少してしまったといわれている。



まちを歩く 人権のかおりを求めて



1945年(昭和20年)6月7日には天神橋周辺に大空襲があり、猛火に追われた多くの住民は、長柄橋下の河川敷に避難した。そこへB29が1トン爆弾を落とし、さらに機銃掃射を加えたことから、400人近くの貴重な命が奪われた。

そのときの機銃掃射によりできた弾痕は、長柄橋の橋脚になまなましく残り、その凄まじさを長く伝えていた。

旧長柄橋は、1982年(昭和57年)

に新しい長柄橋の完成とともに撤去されることになった。そこで悲惨な戦争の「生き証人」を残すと、弾痕のある橋脚の保存活動を行ったが、「河川管理の上で問題がある」という理由で、ついに取り壊されてしまった。

現在は、橋の南詰めに建てられた慰靈の観音像の横に弾痕の残る橋脚の一部が設置され、毎年、6月7日に慰靈祭が行われている(写真左)。

また、長柄橋南西にある、大阪市立豊崎中学校(本庄東3)の校庭にも市民の運動によって保存された旧長柄橋の橋脚の一部と、レンガで作られた中せきの一部が保存されており、悲しい歴史を偲ぶ資料として1年生の授業に活用されている(写真上)。

このように、大阪には悲惨な戦争の事実を伝える遺跡が数多く残されている。

これら戦争遺跡は、私たちの過去にあった悲惨な体験を思い起こさせてくれるだけではなく、二度とこの悲惨な体験を起さないように静かに見守っているようにも思われるならない。しかし、世界に目を向けてみれば、残念なことに今も戦争によって多くの命が奪われている。私たちは、この悲惨な体験を風化させることなく、後世に伝えていくことができるだろうか。

大切にしていきたいこと

堺市

中学三年生(当時)

潘

敬

淑

すく

日本に来て二十三年になりました
日本に来たうちは右も左も分かりません
もちろん言葉も分かりません
つらかった

人との付き合いが出来ません
外に出ることが出来ません
テレビだけが友だちでした

子どもができ必死で育て
少しきついが広がりました
子どもが大きくなり

殿中に入学しました
毎日 学校に来るのはしんどいけど楽
しみです

学校でかわす色々な言葉
何気ない一言
でもそれでうれしくなつたり

なつたり
しばらく休んで学校に来たとき
「元気だつた」とか

「心配してん
で」と言う二言
とてもうれしい

何でもないようでも心にひびくのです
でも 何も思っていない言葉が

人の心を傷つけます
私は言葉を大切にしていきたいです

私の障害

大阪市 小学六年生(当時)

岩

見

はるか

私の障害は耳生まれた時かららしい
右の耳は二才で気が付いて
左の耳は三才で気が付いたらしい

神様はどうして私を選んだの?

お母さんとお父さんは
「はるかなら大丈夫」と
強いてくれる 私はその言葉を信じてる

もしそれがうそでも
がんばっていける

がつて障害を持つている私を家族として
あたたかく見守ってくれているから

普通の子が私の耳をジロジロ見るから
普普通の子が私の耳をジロジロ見るから

いつもいやなんかがする
やっぱり 家族の話でも分からぬ事

自分が自信を持つて生きたい
それが私の夢だから

何度も聞き返したら
「もういいわー」

ついわからたくないから分かったぶりを

してしまつ
お父さんは手話を覚えてくれている
みんな私がいるから忙しいと思う

だから時々
「私はどうして生まれてきたのだろう」と
と思う時もある 自分が悔しい時も

でも自信を持つて生きたい
自分が想像したことと、豊かな人権文化を「創造」することが必要です。この情報誌がこれらの「そうぞう」につながるように—そんな思いが込められています。

